

地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の在り方
ワーキンググループ(第3回) 議事概要

1. 日時

令和6年3月25日(月) 13時～15時

2. 場所

オンライン

3. 出席者(敬称略)

構成員：中尾 彰宏(主査)、大山 りか、小林 寛史、成末 義哲、太田 香、黄瀬 信之

オブザーバー：テレコムサービス協会事務局、一般社団法人 電気通信事業者協会(TCA)、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)、西日本電信電話株式会社(NTT 西日本)、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社

4. 議事概要

(1)地域における通信環境の実態調査 結果報告③

・三菱総合研究所(MRI)発表(資料3-1)

(2)地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の実態を踏まえた利用者端末を含むエンド・ツー・エンドの利用環境整備の方向性

①CATV 連盟ご発表(資料3-2)

②地域 BWA 推進協議会ご発表(資料3-3)

③山梨県富士山科学研究所ご発表(資料3-4)

④JAIPA ご発表(資料3-5)

(3)意見交換

・CATV 連盟と地域 BWA 推進協議会に聞きたいが、多様なコンテンツ(サービス)提供を提供及び検討されているなか、ビジネスが成り立っている、もしくは見込みがあるちそうなコンテンツ(サービス)を教えてください。また一次産業や高齢者向けサービスなど、ビジネス化は当面厳しいが需要があり、国の支援を求めたいコンテンツも教えてください。(大山構成員)
→地域コミュニティチャンネルとして安全・安心に係る地域情報の展開やコンテンツの横展開をビジネスとして検討している(CATV 連盟)

→メッシュの細かいライブ定点カメラを運用しており、高度化すれば AI と組み合わせたりすることで災害予測、道路交通などに活用できると考えており、支援いただきたい。(CATV 連盟)

→補助金を活用して、イニシャルコストを抑えられれば投資回収しやすいが、公共サービスに加えて、見守りや観光などのサービスをどれだけ多く利用していただけるかが事業化において重要。農業向けの自営 BWA について小型でコア機能を備えたオールインワンの基地局を導入している。数十万程度の価格で手軽に使える。ただし、農業のみでの利用では投資回収は厳しいので、WiFi 環境や EC サイトとの連携など多目的の利用を推進している。(地域 BWA 推進協議会)

・富士山にケーブルを設置した後、撤去したとのことだが、環境保全のためか、世界遺産のためか。他にはあるのか。(太田構成員)

→文化遺産として文化庁への申請が必要。今回は実証試験として仮設置の許可を得られた。環境省管轄の保護地区も同様にしっかりした申請とネゴが必要。有用性と公共性が求められ、許認可に時間を要する。(山梨県)

→国として加速化する方策が必要。(太田構成員)

・JAIPA のご発表について、地域の IT 人材不足について、医師はへき地手当があるが、エンジニアにも適用されないと人材不足の解消が難しいと考えている。(太田構成員)

→地方の給料は上がらず、へき地手当の適用も難しい状況である。大手企業が給料面で高待遇となっており、優秀な人材をとっている。(JAIPA)

・地域 BWA について、投資回収できて自律的に運用できており、将来的に見通しが立っているサービスはどういったものがあるか。地域 BWA は災害に強いとあるが、災害時の有効性と課題について教えてほしい。(小林構成員)

→ビジネス面について、運用できている事業者は、街づくりの視点で進めており、町を面でエリア化して広くサービス展開できているためと考えている。基地局のエリア整備を先に進めると投資回収できているケースが多い。災害に強い点について、全ての事業者ではないが各地域で独立したシステムを持っている。通信事業者のネットワークに比べると地方分散しているため広域災害に強い。また音声扱わないので、システム構成がシンプル。音声の帯域保障も不要。通信事業者のネットワークよりトラヒックが混雑していないというもある。(地域 BWA 推進協議会)

→ビジネスについては、面でエリアを確保し、多様なプレイヤーを巻き込むことが重要であり、災害面では地域 BWA は一つのバックアップとして有益と感じた。(小林構成員)

・それぞれの地域で最適なソリューションがある。全国一律で導入すべきではない。各地域でデザインすべき。地域 BWA についてバックホールに光が必要。コア設備は各地域で独立して整備すべきか、複数地域で整備・運用すべきか(黄瀬構成員)

→コア設備について、オンプレ設置と共用型の 2 パターンある。適材適所あるが、人が少ない小規模地域では初期投資が少ない小型基地局をオンプレで進めるほうが現実的に良い。エリアを多用途に使いたい場合は、共用型が良い。(地域 BWA 推進協議会)

→各地域でデザインできる人材も必要と考える。(黄瀬構成員)

・設備更改と運用のコストを分担している例を教えてほしい。進んでいないのであれば課題を教えてほしい。(成末構成員)

→老朽化は事業者共通の課題なので、協力して解決ができると思う。(CATV 連盟)

→コア共用型は共同で更改している。農業関係で小型基地局を使っており、一般的な光ケーブルをそのまま使える。無線機だけ交換すればよい。(地域 BWA 推進協議会)

(4) 事務局からの連絡事項

・次回 WG の開催日程は 3 月 28 日(木) 13:00-15:00 で開催予定。詳細は別途事務局から案内する。